

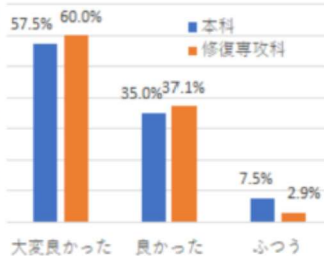
職人の技を受け継ぎ歴史・文化を継承する 金沢職人大学校だより

◆金沢職人大学校の新しい取り組みを紹介します！

金沢職人大学校の役割は、伝統的建築技術の継承とそれを担う職人の育成、および、市民等に職人の大切な存在を知ってもらうことなどです。それらを発展させるため、いくつかの新しい取り組みを進めています。そのうち四つ紹介します。

第一は、本職大だよりの発行です。第二に、本科と修復専攻科の修了に際して研修生に初めて無記名のアンケートを行

いました。その中で研修内容の評価は右図に示すようにほとんど「良かった」で「良くなかった」はみられませんでした。



第三は、本科研修生向けに教養講座を開始しました。必修とし三箇月に1回の開催です。第1回は筆者が担当し2月に「金沢の歴史的建築物の改修と活用～半世紀の歩みと職大の役割」をレクチャーしました。今後は、金沢の歴史的建築に関する内容や県内外の卓越した技術を持つ職人の方にお話しと実技をしていただく予定です。

第四は、金澤町家情報館に常備するため、修了生の名簿を作成することです。同館では金澤町家の修理等の相談を受けていますが、必要なときに職人を紹介するために活用するものです。これは、市の要請があり、現在、職大で修了生に掲載希望の有無を含めて調査しています。本年5月に名簿を完成させる予定です。
(川上光彦)

修了式（修復専攻科）が行われました

令和3年2月26日、来賓に山野之義金沢市長、野本正人金沢市議会議長をお迎えし、修復専攻科第7期生の修了証書授与式が執り行われました。

今期の修了生は42名。仕事を持ちながら、自身の技術向上のため、伝統的建造物の修復及びそのための調査研究技術を3年間にわたり修得してこられました。特に昨年は、コロナ禍のため、休校の時期もあり修業期間の延長を余儀なくされた中で講師や指導員の方々のご指導のもとに努力し、「歴史的建造物修復士」として晴れの日を迎えら

れたことに敬意を表します。

修了課題は、寶集寺大仏殿、成巽閣の畳、銅瓦葺屋根の塗装技術、木原家住宅、山田家洋館、旧田上医院及び旧田上家コンクリート塀、です。



市民公開講座

昨年9月13日に三密対策で例年より人数を減らして開催。36名の方が9科の職人の指導を受け、伝統的な技の修得に励みました。中には、あと2つの科を受けると9科全部を体験するという方もおられました。



土壁と泥団子作り



ミニ衝立の製作

庭園探訪

昨年11月1日に、三密対策として募集人数を少なくし、松風閣庭園・長町 西家庭園・成巽閣飛鶴庭・寺島蔵人庭園で開催しました。多くの市民の応募があり、天候にも恵まれ、紅葉には少し早かったのですが、爽やかな中、造園科講師の説明を聞きながら庭園鑑賞を楽しまれました。



松風閣庭園の霞が池

◆ 本科：第9期生（昨年10月入学）の研修内容

本科の9科計43名が、月数回、夜間や土日に研修しています！

石工科

5名が入校。取材時は御影石の加工で荒削り、ノミ切り、ピシヤンの使い方を学んでいました。以前より本校を知り入校したいと思っていた方や組合から紹介された方、石材業を営む父に勧められた方がいました。仕事では行うことがない手作業を学べ、毎回授業参加が楽しみで、技術向上が図れるとのこと。中島正士さんは本年2月の技能グランプリに県代表として出場しました。

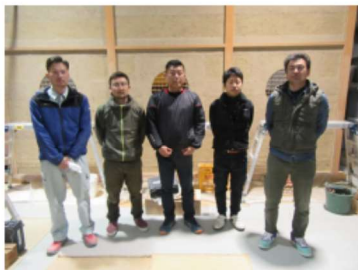


後列は講師、前列研修生

左官科

5名が入校。石膏蛇腹（じゃばら）置引（おきびき）取付・トメ補修の授業を受けていました。知人の職大修了生から話を聞いており、ずっと入校したいと思っていたところ、組合の方からお話しが有り、即入校したいと返事された方がいました。

講師の方によると今年度の研修生は真面目でやる気満々の方が多かったとのことでした。



研修生のみなさん

大工科

8名が入校。入校の動機は、修了生から話を聞いて入学したいと思っていた方や、自分のスキルアップを図りたい方がいました。

入校から半年程経過した中、大工科の授業は月2回、休日の日曜日なのですが、楽しくやりがいのある授業だと研修生全員の方が目を輝かせながら話していました。

取材当日は、継手（つぎて）製作をしていましたが、木材の複雑な加工が難しそうです。



後列左右は講師

瓦科

能登地区の3名が入校。現在、瓦科では原寸図についての基本を学ぶ授業を行っています。入校した動機は、会社の上司が本校の修了生で勧められて入学された方が2名いました。

通学は長距離なので少し大変ですが月2回金曜日に授業があり、毎回日帰りするそうです。（脱帽！）

研修内容は、経験したことの無いことばかりですが、とてもやりがいを感じているとの事でした。



後列は講師、前列研修生

造園科

5名が入校。毎年恒例の金沢長町武家屋敷の薦かけが、昨年12月5・6日に2日間で職人50名、薦外しが本年3月13・14日に2日間で職人46名が参加して行われました。当校9期生もはじめて薦作業に参加しました。

また、深田佑二さんは本年2月に愛知県で行われた技能グランプリに県代表として出場しました。



長町地区の薦外しの様子

畳科

愛知県と大阪府から5名が入校しました。

取材時は、古い畳のたわみを再生する「畳の締め直し」の授業を行っており、古い畳を新たに縫い直して締め直す作業を行っていました。取材当日、宮城県から畳職人の方が見学に来ていました。

古く撓（たわ）んでしまった畳も、締め直すことで、驚くほど水平に修復することができます。まさに伝統の技ですね。



畳科の研修風景

建具科

4名が入校。取材時は切面障子の製作を行っていました。

通常の仕事では機械で作業するが、研修ではほとんど手作業のため、難しいがとてもためになると全員が話す。入校の動機は、会社の社長からの勧め2名、組合からの紹介2名でした。

日曜日の授業でも、月1回であり、毎月知らないことばかりで、自分のスキルアップが図れ、大変楽しみにしているため苦にはならないそうです。



後列は講師、前列研修生

表具科

3名が入校。掛軸の修復(解体、虫損修理、裏打ち等)について研修しています。

また、女性でも簡単に設営できる『移動式茶室』を市工芸品開発促進事業の補助を受けて製作しました。建具科と板金科の方に一部協力を得、「金沢から紙」

を中心に製作、使用する場所によって模様替えも出来ます。職人大学校でもこれを利用してお茶会を開催したくなりました。



移動式茶室と講師陣

◆ 修復専攻科

昨年10月から昼は7期生、夜は8期生の体制で研修に取り組みました。調査報告会に臨んだ7期生は先生方から高い評価を頂きました。豊城文化財鑑査官からは「畳床の調査研究は日本一」、木村名誉教授からは「コンクリート塀の模型制作を通じた調査研究手法は評価に値する」、持田講師からは「寶集寺大仏殿は重要文化財に値する建物」との講評を頂きました。

8期生は、例年同様、文化財建造物の保護の取り組み、日本の伝統的な建築技術、金沢の歴史的建造物の見方等について学びました。



調査成果の報告会

板金科

女性2名を含む5名が入校。

取材時は、水屋の流しの製作授業を行っていました。以前から当校の事を知っており、入校したいとずっと思っていた方がいました。入校された全員の方が、知らないことや経験したことの無いことばかりで、学ぶことも多く、入校できたことを大変喜んでいました。

昨年竣工した、金沢城鼠多門の復元工事に参加していた方もいます。



水屋の流しを製作中

子どもマイスターズスクール

15名の4～5年生の生徒が学び、飾りパネル(左官)、ミニ上敷(畳)、門松(造園)、表札(板金)、額縁(建具・大工)を各科の担当講師から指導を受け、製作しました。

3月には、教養講座のお茶の講師によるお茶会が開催され、お茶の作法を学びました。正座で足がしびれましたが、抹茶をたしなみました。こんな経験も良いですね。



職人(講師)派遣事業

昨年10月23～25日の3日間、香川県高松市国分寺町で開催された讃岐畳技能士会の講習会に、畳科講師吉本隆史氏を派遣しました。伝統的な「手縫い畳床」の製作とその修理の技術である「締め直し」について指導を行いました。

初日に事前準備した薦等を重ね畳床の形をつくり、2日目に約900針の縫い上げ、最終日に表面と裏面を締め上げて畳床を完成させました。「締め直し」の講習を併せて行うことで、手縫い畳床の総合的な技術の修得を図りました。

吉本講師から、本校での指導のあり方を振り返るよい機会にもなったと報告がありました。



歴史的建造物の紹介

旧永井家住宅（市有形文化財）は政治家永井柳太郎の生家で、もとは菊川町に建っていた江戸時代末期の足軽住宅。1941年に永井善隣館記念館として活用され、1981年に旧江戸村へ移築、2008年に再び金沢湯涌江戸村へ移築された。

この再移築のための現地調査を修復専攻科2期生が担当、修復にも携わる。ここで課題となったのが屋根に葺く木羽板の確保だった。当時、木羽板職人が引退、その技術が途絶える危機的状況にありました。このため瓦と板金職人に協力を仰ぎ、木羽板の技術継承に取り組み、元職人の指導のもと木羽板の製作技術を修得し、屋根を葺いて修復工事を完了しました。



修了生による研究会活動

2002年の東山休憩館での保存修理を契機に、畳床の製作と修理技術の継承を目的とした手縫い畳床研究会が発足しました。

この頃、重要文化財旧中筋家住宅保存修理事務所（和歌山県）から畳床の復元と修理について相談がありました。文化財建造物の畳床の復元や修理の技術支援要請でした。

現地調査の結果、畳床は残存箇所から技法の推定ができ復元



旧中筋家住宅での現地調査

可能、毀損した畳床は締め直して再利用できることを報告。本科・修復専攻科で修得した技術を活かすことができ、その後の研究会活動に弾みがつきました。（立野克典）

修了生に行ったアンケートの自由記述をみると、伝統的な技術を修得できたことを評価するとともに、「他の職人や業種とのつながりができた」ことも多くの方が評価している。一方、「もっと実際の歴史的建築について実習を行いたい」という意見もみられた。これは、実現に種々の困難が予想されるが、継続して検討していきたいと思います。また、本科では他科とのつながりが少ないため、もっと連携できるとよいと思われま。新教養講座は、それを進める機会の一つとなるとよいのですが。（M.K.）

修了生の紹介 立野克典氏

立野氏（60歳）は本科第1期生（畳）、修復専攻科第1期生で、本科講師を第3期生より担当。大卒後、家業を8代目として継いだ。大学は見聞を広めるためとのこと。

現在、畳床はほぼ機械製作で自身の工房にも設置。伝統的な手縫い畳製作は年に1回程度だ。それでも、伝統的な仕事に携わることは、職人のプライドに大切だと。畳職人は現場での仕事が短時間で、職大でのネットワークは有難い。それにより成巽閣や山中温泉無玄庵の仕事にも関わることができた。息子が9代目を継いでおり、次の世代を育てる責任も感じている。



講師（石工科）紹介 出口昭氏

出口石材を27歳で創業。現在79歳で、50年以上の職人経験があり、今でも現役バリバリです。

本科第1期修了生で平成12年10月から当校の講師も務めています。平成27年には県の「百万石



本科講師として指導する出口氏

の名工」、同年11月には「現代の名工」に、また平成29年には黄綬褒章を受章されています。

子ども3人も石工職人で、孫も6人います。趣味は魚釣りで、クロダイをよく釣りにいくそうです。

「金沢職人大学校だより」No. 03、2021年4月

【発行・問合せ先】

公益社団法人 金沢職人大学校

理事長・学校長 川上光彦

住所：金沢市大和町1番1号

（金沢市民芸術村の一角にあります。）

Tel 076-265-8311 Fax 076-225-8314

Webサイト <http://www.k-syokudai.jp/>

事務局：平日9:00～17:00、土日・祝日休み

